

平成30年11月16日

杉並区議会議長

大熊 昌巳 様

文化芸術・スポーツに関する特別委員会

委員長 上野 エリカ

文化芸術・スポーツに関する特別委員会活動経過報告書

文化芸術・スポーツに関する特別委員会の活動経過について、下記のとおり報告します。

記

1 平成30年9月28日

(1) 報告聴取

ア 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの取組と経過について

(ア) 文化プログラムの取組概要

大会組織委員会は東京2020大会に向け、指針となるアクション&レガシープランを策定。区では、同大会の文化面でのレガシーを「未来へ繋がる感動や体験」と定義し、既存事業等への支援を強化・発展させ、区民参加を促す。

(イ) 取組経過

- ・文化・芸術活動助成金事業の活用として、企画提案事業に新たなテーマ「レガシーの創出に向けた新たな文化芸術の創造～杉並から国内外へ文化を発信～」を追加設定。
- ・協働事業の和文化発信に向けた取組、教育部局との連携として、7～8月に東京2020大会公認プログラムとして和文化をテーマにアート展を開催。
- ・アートサポーターの育成として、すぎなみ地域大学で講座を開催し、15名が登録。
- ・交流自治体「南相馬市」との連携、教育部局との連携として、平成29年11月、「南相馬市子ども文化芸術交流事業」に女子美術大学の学生と区内の小学生が参加し、段ボールアートを制作し、文化芸術を通じた交流を深めた。
- ・杉並の魅力国内外へ発信する取組として、区内の文化芸術に係る情報を英語に翻訳した小冊子を制作。

イ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けた事前キャンプ誘致等の取組について

(ア) 事前キャンプ誘致に向けた取組

- ・永福体育館のビーチコート事前キャンプ候補地として登録。
- ・ドイツの視察を受け入れたほか、東京都などを通してアフリカ及び南米諸国、イタリア等へ働きかけを行う。
- ・平成31年7月に実施予定であるワールドツアー日本大会においても、各国に向け事前キャンプの誘致に取り組む。

(イ) 都市ボランティアの都内区市町村からの推薦について

- ・9月26日から東京2020大会における都市ボランティアの募集が開始。
- ・応募枠3万人のうち、杉並区には推薦枠150名程度が割り当てられている。
- ・町会・自治会・消防団・環境美化活動などを行っている方等を、都市ボランティアとして推薦していく。

(ウ) 聖火リレーのルート及びセレブレーションについて

準備局から、聖火リレーのルート希望及び1日の終わりに最終ランナーの到着を祝うセレブレーション会場候補地の調査があり、ルートは青梅街道、会場候補地は桃井原っぱ公園での実施希望を回答。12月末を目途に決定予定。

(エ) 区民懇談会委員の任期と今後の活動

- ・委員の任期は2年間となっており、8月31日に更新を迎えた。再任18名、団体推薦による変更8名、辞退4名となり、26名の委員に委嘱。
- ・今後は、「スポーツ」「こども」「地域活性」の3つの分野において、レガシーの創出に向け具体的な取組を進めていく。

ウ 「夏休み！！みんなで遊ぼう！学ぼう！体験しよう！フェスティバル」  
～エンジョイ！オリンピック・パラリンピック～の実施報告について

(ア) 目的

オリンピック・パラリンピック関連イベントを開催し、区民のスポーツへの関心を高めるとともに、東京2020大会に向けた機運醸成を図る。

(イ) 内容

- ・平成30年7月21日午前10時～午後5時に荻窪体育館及び中央図書館で実施
- ・スポーツ教室、パラリンピック競技体験の実施。
- ・「東京2020大会ボランティア情報」「1964年大会の舞台裏」「スポーツ義足の誕生と未来」の講演会、中央図書館地下講堂でスポーツ映画上映会を実施
- ・おもてなしプログラム「外国の人に声をかけよう！」等を実施。

(ウ) 参加者状況

465人（大人221人、子ども244人）、うち中央図書館は45人